

マイクロ波映像レーダがとらえた筑波学園都市周辺（１）

データ収集：独立行政法人・通信総合研究所

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

通信総合研究所が開発した航空機搭載マイクロ波映像レーダ (Polarimetric and Interferometric Airborne Synthetic Aperture Radar System: PI-SAR) がとらえた筑波学園都市周辺の様子です。観測波長帯はXバンド（約3cm）で地上分解能は1.5mの映像です。水平（H）・垂直（V）偏波の組み合わせから観測されるHH偏波画像、VH偏波画像、VV偏波画像を掲載しました。さらに、これらをR（赤）、G（緑）、B（青）に割り当ててカラー合成処理したものが上段左側の画像です。画像内の左右に「サイエンス通り」と「国道408号線」が南北方向に走っています。農地の区画線が明瞭であり、市街地の分布状況等がよく判読できます。地表面の様子を分析する上で、PI-SAR データは光学センサデータからでは得ることができない情報を与えてくれます。

観測日：1997/9/30；Xバンド（地上分解能：1.5m）



カラー合成画像（HH偏波：赤，VH偏波：緑，VV偏波：青）



HH偏波画像



VH偏波画像



VV偏波画像

© Communications Research Laboratory, 1997